

緑が丘



「ぼく・わたしが主役」～「自分できめる」「みんなと究める」～

令和8年6月2日発行 三木市立緑が丘小学校

「BE THE PLAYER」～自分で！みんなと！！～

みどりっ子たちが、最高のパフォーマンスを発揮した「ぼく・わたしが主役」の運動会が終わりました。紅白同点での優勝が、それを物語りました。徒競走、玉入れ、綱引き、大玉は大接戦。リレーも引き分け。大差がついても最後まで全力疾走するアンカーの姿に心うたれました。各表現活動でも、表現への積み上げだけでなく、子どもたちどうしの関わり、自分たちで考えて動いているからこそその姿を見ることができました。

今回、学校として大切にしたい共通項は、①全体像を子どもたちと共有すること⇒②意欲⇒③子ども創作タイムの保障⇒④ふりかえりつつ積み上げていく⇒⑤最後に思いを表現にのせることです。一見、同じように見える表現活動ですが、ひとつひとつ、一回一回、一人ひとり違う・・・、本校の合言葉である、「自分できめる」「みんなと究める」を体現していった子どもたちに拍手を送ります。

さて、元加賀市教育長の島谷千春さんのお話をうかがう機会がありました。そのキーワードが「**BE THE PLAYER**」です。簡単にいうと「**当事者であれ**」。学びの主役である子どもはもちろん、すべての人が当事者として学校教育にかかわろうと思えるポジティブなメッセージです。子どもたち一人ひとりが学習や生活の傍観者でなく「主役(プレーヤー)」として自分で考え、動き、新しいものを生み出していく教育を端的に表したものです。本校の考え方と合致します。

このような主体性が保障されるためには、「余白」が必要だそうです。子どもたちに任せる余白、教師ひとりひとりが考える余白。自由度といいかえてもいいかもしれません。それぞれがそれぞれのステージで安心してがんばれる居場所ともいえます。運動会でも学習でも生活でも同じです。

また、映画評論家 淀川長治さんが「時計の音から時は止まらないもの、後悔しても時間はかえってこないという意味のことをおっしゃっていた」との文章を目にしました。

運動会、そして、運動会に向けての過程で、子どもたちは、主役として自分たちの姿を見つめ、力を伸ばしました。「**ぼくがやった」「わたしがやった」「みんなとやった」「楽しかった**」は、運動会だけで

なく、必ず、これからの彼らを支えます。時も彼らも学校も止まりません。「**ぼく・わたしの運動会**」の次は？

～自分で！みんなと！！～

また主役たちの出番です。今月も主役の彼らの応援を、よろしく願います。
(校長 佐野 順子)

〈追記〉

第54回運動会開催にあたり、早朝よりの準備、そして開催後のテント片付けに多くの方に、ご協力いただきました。とりわけ、テント片付けの迅速さ、協力体制、本当にありがとうございました。おかげで、高学年児童も早く下校できました。チーム緑が丘への確かな参画を感じました。関係者の皆さま全てが「**BE THE PLAYER**」として動いていただいたことに重ねて感謝申し上げます。

運動会までの過程並びに当日の様子はHPでも、お楽しみください。

ねじりはちまき
おがわ はやと

ごしごし
ただいま
ちきゅうを
せんたくちゅう

ああ
いそがし
いそがし



＜どうなのお「のはらうた」より＞

